

後期基本計画案（第3章第2節）

第1項 幼児教育の向上

幼児教育のニーズが多様化しているなかで、生きる力の基礎を培うため、幼児の主体性を伸ばし、豊かな心と元気な体を育む保育・教育課程の編成に今後も引き続き努めます。

また、子どもの健全な育成のため、基本的な生活習慣や食事の大切さを啓発し、未就学の子どもを持つ家庭・保護者の教育力の向上に努めます。

更に、幼児期の保育と教育の充実を目指して、職員研修や園内研究、所内研修の計画的な実施や計画訪問での指導・助言により、職員の資質向上を図り「幼児教育の向上」を図ります。

6年後の目指す姿

目まぐるしく変化する社会の中で、たくましく生き抜く力を育む幼児教育を推進する幼稚園・こども園・保育所となっている。併せて、基本的な生活習慣の確立など、生きる力の基礎につながる経験等が、家庭や地域でできている。

施策の成果を表す指標

指標名	基準値（R1 年度末）	目標値（R7 年度末）
幼稚園・こども園・保育所に行くことが楽しいと感じる幼児の割合	80.7% （H30 年度）	85%以上 （R6 年度）
朝食を食べる児童の割合	96.9% （H30 年度）	97%以上 （R6 年度）

関連する個別計画

計画名	計画期間
子ども・子育て支援事業計画 第2期	令和2（2020）年度～令和6（2024）年度
教育基本計画	令和2（2020）年度～令和7（2025）年度

後期基本計画案（第3章第2節）

施策の展開

第1号 幼児教育の充実

こども保育課

《現状と課題》

子どもを取り巻く環境が目まぐるしい変化の中で、家庭・地域社会と幼稚園・こども園・保育所が総合的に幼児教育を提供する必要性が求められています。また、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の育成ができるように、更なる保育・教育の質の向上が必要です。

これらの課題をふまえ、幼児の主体的な活動としての遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりの発達の特性に応じた総合的な指導を展開し、幼児理解に基づいた計画的な環境構成と教諭・保育士の役割を明確にした援助を探究していきます。また、豊かな生活体験の充実により豊かな表現力や感性・思考力・言語能力を育み、発達や学びの連続性をふまえた幼児教育と小学校教育との円滑な接続を推進するとともに、教員の指導力の向上が求められています。

《取組内容》

生きる力の基礎を培うため、幼児の主体性を伸ばし、豊かな心と元気な体を育む教育・保育課程の編成を推進します。また、教育内容の充実を図るため、幼保の枠を超えた「就学前教育一元カリキュラム」に基づく教育と保育を推進するとともに、教育・保育の資質向上のための、私立施設も含めた研修体制の整備充実に努めます。更に、幼児期の教育・保育を小学校教育に円滑に接続できるよう交流や連携を積極的に図るとともに、幼児の生活が安全・安心に過ごせるよう安全教育の充実を推進します。

特別な支援を必要とする子どもとその保護者の支援については、連続的・継続的に個々の発達を促すことができるよう、関係各機関との連携を図り個別支援計画を作成するとともに、職員の研修体制を整えます。

主な事業	
------	--

後期基本計画案（第3章第2節）

第2号 家庭教育の推進**こども保育課・子育て支援課****《現状と課題》**

基本的な生活習慣や生活能力、自立心や規範意識の確立、早寝早起き朝ごはん運動を中心とした食育の推進等、生きる力の基礎につながる教育を家庭との連携を図りながら推進しました。

家庭や地域での生活で本来経験すべきことや身につけるべきことが、十分に実施できることが、その後の子どもの育ちに大きく影響しています。

しかしながら、近年、家族のつながりの希薄化・核家族化・家庭の子育て力の低下等が見受けられています。

また、子どもの発達や発育に対する不安などから孤立感が生じ、虐待につながる恐れもあることから、家庭力向上への取り組みは本市の大きな課題です。

《取組内容》

子どもの発達や発育に対する知識、子どもへの理解等について学習の機会を設定する等、積極的な家庭力の向上に努めます。

また、子どもの健全な育成のため、基本的な生活習慣を確立し食育の推進に努め、幼稚園・こども園・保育所における子育てふれあい広場・施設開放・所庭開放、こどもセンター・きらっ子ルームの利用を通して、基本的な生活習慣や食事の大切さを啓発し、未就学の子どもを持つ家庭・保護者の教育力の向上に努めます。

主な事業	
------	--

後期基本計画案（第3章第2節）

第2項 学校教育の向上

習志野市教育基本計画における「豊かな人間性と優れた創造性を育む習志野の人づくり」の基本目標の下、学校教育においては、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力という知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育てるための教育を実践してきました。今後も、情熱あふれる教育により、夢ある学びに繋がるよう「小さな都市（まち）の大きな教育」を充実・発展させていきます。

社会状況の大きな変化により、学校教育に求められているものは更に高度で複雑になってきています。学校教育の直接の担い手となる教職員に対し、研修や学校訪問での指導・支援を実施することで資質・指導力を向上させ、「確かな学力」の保障、「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進を支えていきます。

児童生徒に対しては、全国学力・学習状況調査や習志野市学力調査、及び体力・運動能力、運動習慣等調査の調査結果を活用し、学力向上、体力向上に繋がる適切な指導を行っていくとともに、「主体的・対話的で深い学び」「わかる・できる授業」の実現に向け、読書活動やICTを活用した教育の充実を図る他、国際社会を生きる資質・能力を培うため、外国語教育・国際教育を充実させます。また、鹿野山少年自然の家や富士吉田青年の家での宿泊学習などの体験活動を大切に、道徳性や社会性の育成を図ります。

いじめ・不登校の未然防止・解消に向けての取り組みとして、家庭・地域・関係機関との連携による組織的な対応を更に充実させていきます。

また、特別支援教育を必要とする児童生徒に対し、一人ひとりの特性やニーズに応じたきめ細かな支援を行うため、多くの教員が広く知識を得て、指導力を向上させることができるよう取り組みを行っていきます。

市立高校である習志野高校においては、生徒・保護者のニーズに対応した多様な学校教育が実践できるよう、文武両道の実現を目指していきます。

この他、学校施設をはじめとした教育施設の計画的な改修等を行い、教育環境を整備し、教育活動の充実と教育の質の向上に取り組めます。

6年後の目指す姿

社会の変化に主体的に対応できる確かな学力を身に付け、学ぶことが将来への夢の実現に繋がるものであると実感できる「習志野教育」を展開し、子どもたちがよりよい教育環境の中で、豊かな人間性と優れた創造性を育む学校教育を受けることができている。

後期基本計画案（第3章第2節）

施策の成果を表す指標

指標名	基準値（H30 年度末）	目標値（R7 年度末）
①全国学力・学習状況調査 結果の習志野市と全国平均 正答率の比較 ②習志野市学力調査結果の 算数・数学の正答率 60%未 満の割合	①全国比 +0.0～7.6 ②(小4)算数 23% (中1)数学 32%	①全国比 +5.0～12.6 ②(小4)算数 15% (中1)数学 25%
全国体力・運動能力、運動 習慣等調査の体力総合評価	・小学校5年男子 26.5 ポイント (全国 9.6 ポイント) (全国との差+16.9 ポイント) ・小学校5年女子 53.5 ポイント (全国 21.9 ポイント) (全国との差+31.6 ポイント) ・中学校2年男子 24.6 ポイント (全国 6.2 ポイント) (全国との差+18.4 ポイント) ・中学校2年女子 73.6 ポイント (全国 53.3 ポイント) (全国との差+20.3 ポイント)	・小学校5年男子 全国との差+20 ポイント ・小学校5年女子 53.5 ポイントを上回る ・中学校2年男子 全国との差+20 ポイント ・中学校2年女子 73.6 ポイントを上回る

関連する個別計画

計画名	計画期間
習志野市教育振興基本計画	令和2（2020）年度～令和7（2025）年度
習志野市子どもの読書活動推進計画	令和元（2019）年度～
特別支援学級・通級指導教室整備計画	令和元（2019）年度～令和3（2021）年度
習志野市学校施設再生計画（第2期計画）	令和2（2020）年度～令和7（2025）年度

施策の展開

第1号 信頼を築く習志野教育の進展

指導課・総合教育センター

《現状と課題》

【いじめ・不登校の未然防止、解消に向けた取り組みの進展】

本市では、「けんか」や「ふざけ合い」もいじめと捉えて対応しており、いじめの認知件数としては増加傾向が見られます。学校では、いじめに至る状況を早期に察知することや、いじめアンケート等を活用していじめを把握するなどして、早期に対応をし、その解決に努めているところです。国の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果からも、本市のいじめの解消率は県の値を上回っており、早期の対応と継続した対応の効果が見られています。

また、不登校、登校しぶりの児童生徒や、欠席日数が年間30日未満の児童生徒の割合は本市においても増加傾向にあり、その状況や要因は多様化しています。特に、小学校ではここ数年顕著に増加しております。

発達段階に応じた理解と組織的な対応を充実させるとともに、家庭・地域・関係機関とも更に連携しながら、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることが必要です。

【特別支援教育の一層の充実に向けた取り組みの進展】

特別支援教育を必要とする児童生徒が増加している状況の中、障がいを持った児童生徒に対し、一人ひとりの特性やニーズに応じたきめ細かな支援が求められています。そのため、特別支援教育担当者の専門性の向上、通常学級担任への特別支援教育に関する理解の推進など、全ての教員が広く知識を得るとともに、指導力を向上させることが課題となっています。

【教職員の資質・指導力の向上に向けた取り組みの進展】

社会状況の大きな変化により、学校教育に求められているものは、更に高度で複雑になってきています。学校教育の担い手として、直接、児童生徒の教育に係わる教職員は、より深い専門性と、教育に対する責任感、自らを律し努力できる意欲をこれまで以上にもつ必要があります。

後期基本計画案（第3章第2節）

《取組内容》

[いじめ・不登校の未然防止、解消に向けた取り組みの進展]

年間3回実施する「習志野市いじめアンケート」を活用し、いじめを早期に発見するとともに、組織的な早期対応を徹底するとともに、「いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係する団体との連携を図り、いじめの未然防止策や解決策について協議し、その成果を学校に還流します。

また、生徒指導の機能を生かした「わかる・できる授業」を推進し、児童生徒が自ら学ぶ意欲をもち、達成感や充実感を味わい、自己理解に努め、自己実現を図れるよう、授業改善を図るとともに教師と児童生徒や児童生徒同士の共感的人間関係を基盤に、児童一人ひとりが自己存在感を持てる場面や、自己決定する場面のある授業を実現します。

[特別支援教育の一層の充実に向けた取り組みの進展]

特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な支援が更に図られるよう、校内支援体制の整備や関係機関との連携協力した体制整備に一層努めます。また、多くの教員が専門的な知識をもち、適切な指導・支援が行えるように研修会を実施し、資質向上に努めます。

[教職員の資質・指導力の向上に向けた取り組みの進展]

これまでの教職経験や職務に応じた研修を実施し、職務に真摯に向い、確かな指導力を持ち、自らも主体的に学ぶ教職員を育成します。

主な事業	
------	--

第2号 子どもの生きる力を育む教育の充実 指導課・総合教育センター・学校教育課

《現状と課題》

【「確かな学力」の保障、「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進】

「確かな学力」の育成について、全国学力・学習状況調査や習志野市学力調査における、習志野市の小学校及び中学校の児童生徒の学力は、小学校（国語・算数）、中学校（国語・数学・英語）とも、全国平均正答率を上回っています。しかしながら、経年変化を見ると、その上回り幅は少しずつ小さくなってきており、正答率の分布図が二極化していることから、苦手意識をもっている児童生徒の底上げが課題です。

「豊かな心」の育成については、「鹿野山少年自然の家」・「富士吉田青年の家」を活用した宿泊学習の展開や、芸術・文化に触れること、多様な人と交流すること、先人の偉業を知ることなど、教育活動全体を通じた道徳教育により、子どもが感動する体験活動を大切にし、道徳性や社会性の育成を図りました。

「健やかな体」については、一人ひとりの課題に応じた体育学習の更なる充実を図るとともに、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた計画的・効果的な体力向上に関する取り組みを推進し、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の基礎を育む必要があります。

【食育の充実と安全・安心な学校給食の実施】

「食に関する授業」の実施及び「早寝早起き朝ごはん」の推進により、児童生徒が健全な食習慣と基本的な生活習慣を身につけられるよう取り組んできました。しかしながら、夜型の生活習慣から脱却できない児童生徒が少なくない状況です。

後期基本計画案（第3章第2節）

《取組内容》

[「確かな学力」の保障、「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進]

児童生徒の学力向上を目的として、教員の授業力向上に努めるとともに、各学校が取り組む研究を広く公開し、小・中学校の研究成果を市内全体で共有することなどにより、授業力を高め、児童生徒の学びに向かう力の涵養を図ります。併せて、学力調査結果の経年変化等の分析を通し、各学校の日々の学習活動に直結する具体的な指導改善の推進に努めます。また、児童生徒の理解を確実にするためにICT機器の効果的活用を推進します。

児童生徒の体力や運動能力の向上を目指して、体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を活用し、体育・保健体育の授業改善を進めるとともに、学校行事、業間体育、運動部活動等における身体を動かす機会の充実を図ります。

また、引き続き、豊かな体験活動を通して道徳性や社会性を育成する心の教育に取り組めます。

[食育の充実と安全・安心な学校給食の実施]

学校における食に関する指導を充実させ、児童生徒が望ましい食習慣を身につけられるよう、学級担任、教科担任、養護教諭と栄養教諭、栄養職員が連携して、より効果的な食育の推進を図るとともに、地域の方々との交流を図り、学校・家庭・地域が連携した食育を進めていきます。

主な事業	
------	--

後期基本計画案（第3章第2節）

第3号 子どもを未来につなげる教育の展開 **指導課・総合教育センター****《現状と課題》****[学びに向かう力、人間性を発揮させる教育の展開]**

平成29年度改訂の学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を進めるとともに、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにする読書活動の充実を図る必要があります。

[国際社会を生きる資質・能力を培う教育の展開]

小学校での職場見学、中学校での職場体験の実施によるキャリア教育を推進する他、英語指導助手を活用し、外国語教育・国際教育を学ぶ環境を整え、充実を図っています。外国語教育においては、「聞く力」「読む力」「話す力」「書く力」を中心としたコミュニケーションを図る資質・能力育成の一層の充実と小・中学校の連携が課題となっています。

[安全・安心を確保し、防災・減災の力を培う教育の展開]

地震などに対する災害安全や、通学時や放課後の交通安全についての教育を引き続き推進していく必要があります。

《取組内容》**[学びに向かう力、人間性を発揮させる教育の展開]**

学校図書館・学校司書の積極的な活用を行い、学校図書館が持つ3つの機能「読書センター・学習センター・情報センター」を発揮することで、児童生徒の思考力・表現力・判断力等の育成を高め、情報活用能力を育てていきます。

[国際社会を生きる資質・能力を培う教育の展開]

外国語及び外国語活動において、コミュニケーションの素地及び基礎を養う等、社会の変化に柔軟に対応できる力を培うために、英語指導助手の活用や小中連携、指導法の研修等を充実します。また、総合的な学習の時間や外国語活動等の時間を通して、諸外国の生活様式や文化に対する理解を深める学習の充実を図ります。

[安全・安心を確保し、防災・減災の力を培う教育の展開]

各学校において危機管理マニュアルを作成し、教職員の役割分担を明確化するとともに、地域と連携した実効性のある訓練の実施、学校・市の街路整備課・習志野警察署と連携した通学路の点検及び定期的な学校施設の安全点検を行い、児童生徒の安全安心の確保に努めます。

また、家庭や学校から子どもに関する多様な相談に応じ、子どもの課題を改善できるよう支援を行います。この他、教職員は、児童生徒に対する虐待を最も発見しやすい立場にあることから、児童生徒の変化に注意し、虐待の兆候の早期発見に努め、児童生徒の生命と人権を守るために、市長事務部局、児童相談所、民生委員・児童委員、人権擁護委員等の関連機関と速やかに連携し、組織的な解決を図ります。

後期基本計画案（第3章第2節）

主な事業	
------	--

第4号 魅力ある市立高校づくり**習志野高校****《現状と課題》**

生徒・保護者のニーズに対応した多様な学校教育が実践できるよう、文武両道の実現を目指しています。

学習面では学力向上に取り組み、授業を充実し、個に応じた指導や選択授業を取り入れました。さらに、教員の指導力向上のために、研修体制の充実を図り、主体的で対話的な深い学びの実践に取り組みました。部活動では、目標達成のため努力することの大切さや仲間を思いやる豊かな心を身に付け、人間形成にプラスになるよう取り組みました。また、将来の目標設定ができるよう多様な価値観に対応できるような進路指導に取り組みました。

今後もこのような取り組みを充実・発展させるとともに、「市民の高校」としての役割を果たしていくために、学校評議員や多くの地域・保護者の方の評価や意見を取り入れた学校運営を行い、社会に開かれた学校づくりを推進していく必要があります。

《取組内容》

生徒が充実した学校生活を送れるよう、文武両道を実現するために、学習面と部活動の支援体制を充実させます。そして、進路実現のために、一人ひとりの多様なニーズに対応できる指導体制を築き、新しい大学入試制度に対応できるようガイダンス等の内容を充実させていきます。さらに、国際交流や高大連携など、豊かな学びを実現する教育活動を行うとともに、生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう、スクールカウンセラーなどの協力を得ながら教育相談体制をさらに充実させていきます。

また、学校評議員やミニ集会での意見や評価を取り入れ、地域や社会に開かれた学校づくりのために取り組んでいきます。そのため、地域の行事やボランティア活動にも積極的に参加し地域との交流を図ります。

主な事業	
------	--

後期基本計画案（第3章第2節）

第5号 教育施設等の整備・再生

教育総務課・学校教育課・総合教育センター

《現状と課題》

本市の学校施設は、児童・生徒の急増期であった昭和40年後半から昭和50年前半（1970年代）にかけて建築された校舎・体育館等が多く、老朽化が顕著となっています。このことから、計画的な整備・再生を早期に進めていく必要があります。

また、総合教育センターは、施設の老朽化が著しいため、計画を前倒しして、建て替え等について検討していく必要があります。

この他の教育施設についても、施設の老朽化が顕著となっているため、施設の改修等を計画的に進めていく必要があります。

《取組内容》

学校施設は、建築後50年が経過する建物が増加していることから、習志野市学校施設再生計画（第2期計画）に基づき、改築や長寿命化、大規模改修など、老朽化した学校施設の整備・再生に着手します。

また、今後の児童生徒数の推移や適正規模の検討を行っていきます。

総合教育センターは、研修機関としての施設（機能）を維持していく必要があります。今後、施設の建替えについて、他の施設との複合化を視野に検討してまいります。

その他の施設についても、公共施設再生計画に基づき、施設の改修等を進めていきます。

主な事業	
------	--